

【依知北地区】令和6年度あつぎタウンミーティング実施結果

日 時: 令和6年8月1日(木) 午後7時～午後8時
 会 場: 依知北公民館集会室
 参加者: 地区の自治会長(12名)、公民館地区館長
 市長、副市長、教育長、企画部長、企画部次長、総合計画担当課長、公民館・地区市民センター長

自治会長からの意見	市長等からの回答
意見1 依知北地区が活性化するコミュニティ交通が整備されている未来について(スーパーマーケット等の生活利便施設が不足していることについて)	
【猿ヶ島自治会】 ■北の玄関口である依知北地区が活性化している、海老名のようなショッピングモールがあるような未来を想像します。現在、上依知、猿ヶ島の方は、相模原・愛川など近隣市町に買い物に行ってしまうので、それを厚木に取り戻せれば厚木の税収増につながると思います。特に猿ヶ島は、相模川に隣接する低地であり、現在も過疎化の傾向にある地区です。神奈中のバスは1時間に1本程で、バスが来ない時間帯もあります。バスの利用者は少ないが、車がないと生活に不便な区域です。特に高齢者で車の運転ができない方、上依知・猿ヶ島の下段の区域全体を考えると、下段から上段への移動手段であるコミュニティ交通が必要と考えます。 5年～10年で考えると、山際には北部防災公園が整備され、人が集まれば周りに店舗もできます。上依知や下川入の上段にはスーパーができ、人の往来が盛んになって、上依知、山際及び下川入がもっと賑やかになることが想定されます。下段から上段への移動がもっと盛んになるため、今後増加すると見込まれます。車を運転できない高齢者等の移動手段として身近な交通手段であるコミュニティ交通が整備されている未来を想像できます。	■コミュニティ交通ですが、厚木市は、手のひら形のように本厚木駅を中心としたバス路線が運行しています。横方向の循環がないことは、長年の課題でもあります。現在、コミュニティ交通に代わる手段として、取り組んでいる「かなちゃん手形」、「タクシー利用助成」を活用していただき、縦の路線は神奈中バス、そして横の方向へはタクシーチケット等を利用していただいております。今後、「タクシー利用助成」だけでは難しいという意見があれば、コミュニティ交通を検討もしていかなければならないと思っています。年間48枚という枚数についても、もし足りないようであれば、更に枚数を増やすことも検討しなければならないと考えております。 スーパーマーケットについては、依知北地区にはない状況ですが、先般も依知南地区で生活利便施設が少ないといった御意見や生活必需品を確保できるよう市で考えていただきたいといった話もありました。 依知北地区では、クリエイトやスーパーのベルクの開発計画が進められています。企業により一層出店していただくため、市においては、スーパーが出店していただく場合、最大1億円、ドラッグストアは最大5,000万円、コンビニも最大2,000万円の支援をしているところです。今後も市の魅力を伝え、立地促進を図ってまいります。
意見2 依知北地区が活性化するコミュニティ交通が整備されている未来について(コミュニティ交通の導入について)	
【下川入第2自治会】 ■依知北地区を含めて厚木市全体的に、市内を横断的に循環するような、本厚木駅から愛甲石田駅の往復でコミュニティ交通が通っている未来を想像しています。 現状の厚木市のバス路線は、本厚木駅を起点にして手のひらの様に縦に伸びていて、横方向の循環がなく不便である。昨今では、この地区にもスーパーやショッピングモールが出店するという話も聞いています。徐々に上段は開発されてきているが、下川入に限らず市内でも上古沢なども含めて移動に困難を強いられている地域があるようです。今、一番困っているのは、郵便局、病院、薬局、スーパーでの毎日の買い物、下古沢の斎場へのアクセスなどの横の移動です。 このような市内を横断的に循環するコミュニティ交通の運行が実現されると、これから益々高齢社会が進む状況の中で、明るい未来が想像できるのではないのでしょうか。	《実施日以降の対応状況等》 令和5年度に実施した日常生活の移動に関するアンケート調査にて、コミュニティ交通の導入を希望する意見を多くいただいたことを受け、上依知地区にお住まいの方に対して、コミュニティ交通をはじめ、地域の移動に関する課題や対応を皆様と共有・検討することを目的に、公共交通及びコミュニティ交通に関する勉強会を今年度中に実施します。この勉強会の開催については、地域の自治会長(上依知上町、上依知中町、上依知下町、藤塚団地)及び今回のタウンミーティングで意見された自治会長(下川入第二、猿ヶ島)に、対面で説明して了承をいただいております。 なお、令和6年10月24日開催予定の依知北地区自治連定例会においても勉強会開催について説明予定です。 (担当課:都市計画課 開発指導課)
意見3 北部地区の防災拠点となる地区公園が整備された後の通常時の利用のしやすさ、実際に災害が起きた時の利用のしやすさを提言したいについて	
【山の根自治会】 ■防災公園が、今計画されていて、今月中には地元の説明会もあると思いますが、そのアクセスについてお尋ねします。災害時、通常時を含めて利用する方に利用しやすいということの中に、アクセスのしやすさ、これがないと実際の利用につながらない、もしくは安全に利用できないということになるのではないかと思います。基本としては歩車道分離です。よく分かる事例として、橋本五差路があります。国道16号は立体化して車はオーバーパスで、人と自転車は地下道でアンダーパス、オーバーパスとアンダーパスで、分かれており、ストレスがないです。他市の事例ですが、アクセスのしやすさ、これが公園の価値を高めると思いますので、もし計画になかった場合、検討をお願いしたいです。公園の少なかった20年ぐらい前、厚木市の市内を対象とした統計では、依知北地区の公園の緑化率がかなり低いポイントでしたので、それも含めてアクセスのしやすい防災公園の計画を是非お願いします。	■北部公園については、防災公園として現在、整備に向けて取り組んでいるところです。この度、依知北地区の13自治会の皆様、そして依知南地区の8自治会の皆様方を対象に8月16日と8月17日に説明会を開催を予定しています。 説明会で皆様方に進捗状況を説明いたしますので、皆様からも交通の便利さ、また防災公園への行きやすさなど御意見をいただきたいと思っています。これからも、皆様方の声をいただきながら、しっかりと北部公園の整備を進めていきます。橋本五差路についての御意見も参考にしながら期待にお応えできるよう取り組んでまいります。 また、その都度、皆様方の御意見をいただければと思っています。 (担当課:公園緑地課、道路総務課)

意見4 スムースな交通移動環境が確立された交通ネットワークについて

【藤塚団地自治会】

■今、内陸工業団地に大規模な物流倉庫が5～6棟立っています。圏央道のインターチェンジから昭和橋に向かって右折すると「長坂」という場所で、物流トラックで大変な渋滞となっています。付近の抜け道に大きなトラックも入ってきます。そこは、子どもたちの通学路なので、我々は見守り隊をやっていて非常に危ないと思っています。内陸工業団地では問題になっています。猿ヶ島にも大規模な倉庫が3棟立っており、今後、同様なことが起きるのではと思っています。

内陸工業団地の日本フルハーフ前の道路の西側に車が来て倉庫に入るために駐車してしまいます。そうすると、バスが走っているの、結果的には非常に危なく、交通に支障が出てきています。どうかいろいろなことを考えたネットワーク的な道路計画をしてもらい、工業団地の中の交通をスムーズにいくよう考えていただけないでしょうか。

今、物流センターができておりますが、製造業の会社がみんな撤退しています。残っているのはマキノ、大久保歯車、それぐらいしか製造業は残っていません。やっぱり厚木があそこに内陸工業団地をつくったときの一番原点に戻って、製造業の誘致を考えていただきたい。

クリエイトは8月から工事が始まります。クリエイトの中でも大型店舗なので、地元の人にも説明しなくてはなりませんが、まずはクリエイトを早期に立ち上げて、この買い物難民を何とかしてほしいです。

■内陸工業団地は、工場とモノづくりがあって、工業団地としての歴史を紡いできたところです。圏央道の開通によって、隣接するエリアにおいては物流の倉庫が建ち並んでいるところです。我々もできる限りこうしたモノづくりは、大事にしていかなければならないと認識しています。新たな産業誘致については、県や国、海外においても連携を取りながら誘致を進めているところです。引き続きアンテナを張りながら、産業の誘致に取り組んでまいります。地域の魅力をしっかりと内陸工業団地を中心に作ってまいりたいと思っています。また、先般、内陸工業団地の皆様方から、内陸工業団地も多くの魅力ある企業がたくさんありますので、視察する観光プランを作っていきながら、内陸工業団地の素晴らしさをPRしていきたいというお話もいただいたところです。

より一層、物流だけでない工業・モノづくりの誘致に取り組んでまいります。また、日本フルハーフの前において、無断駐車があるのは、我々も認識をしているところです。個々の状況や関係各位へのヒアリング等もしながら、社会的なニーズ、将来の利用予測を行い、大型トラックの駐車場等の整備を進めてまいります。

大型トラックの駐車場所は、行政で取り組んでいかなければならない大きな課題として認識しております。県や国に対しても、駐車スペースがあるかを確認しているところです。地域の要望は認識しておりますので、引き続き取り組んでまいります。

そして、子どもたちの通学路においての交通安全は大変重要です。物流が大きな内陸工業団地は、乗用車、大型車の交通量があり、上依知においても日に日に交通量は変わってくるそうです。通学路については、PTAの皆様、学校の先生方、地域の皆様方に目配り、気配りをしていただきながら、危険箇所を絶え間なく見ていただくことによって、子どもたちの安心安全が守られるのではないかと考えているところです。引き続き御協力をいただき、子どもたちにおいても交通安全教室を開催し、自分たちで自分の身を守るという教育をしていく必要があると思っています。ドライバー、地域、行政、学校の4身一体で考えていかなければならないので、絶え間ない御協力もいただければと思います。それが全て子どもたちの未来や笑顔を守ることに繋がっていくと思っています。

(担当課:くらし交通安全課、道路総務課)